

## 会議録における接尾辞ラヘンの用法記述

佐藤 亜実

キーワード: 接尾辞、ラヘン、用法、記述、会議録

## 要旨

会議録にみられる名詞+ラヘンの用法を記述した。ラヘンの上接語については、相対名詞や形式名詞が多いこと、上接語の意味には「場所」「時間」「数量」「抽象的な事柄」があることを指摘した。名詞+ラヘンの用法については、「場所」「時間」「数量」の意味を表す上接語の場合、「ラヘンによってある範囲を漠然と示す用法」で使用され、「抽象的な事柄」の意味を表す上接語の場合、「ラヘンによって他の候補を暗示する用法」で使用されることを明らかにした。

## 1. はじめに

接尾辞ラヘンとは、「真ん中ラヘン」「(～の)ところラヘン」のような形式で用いられ、「～あたり」と類似の意味で使われるものである。このような表現は、「そこらへん」「どこらへん」等の指示詞形式との関連性が指摘できる。すなわち、元は「そこら+へん」という構成であったものが「そこ+らへん」と捉えられる異分析が起り、切り出された「らへん」の適用範囲が広がることで、「真ん中」「ところ」のような名詞にも使用できる接尾辞ラヘンが成立したと考えられるのである。

これまで筆者は接尾辞ラヘンの用法やその拡張について調べてきたが、それは主に福島県郡山市における世代別多人数調査をもとにしたものであった。接尾辞ラヘンは日常場面で使用される俗語的な新語であるとの予想が筆者にあったためである。理由はいくつかあるが、一般的な名詞につくラヘンの形式はもちろん、「そこらへん」「どこらへん」等の指示詞形式も見出し語として国語辞典に記載されている例がなかったこと、事前の自然傍受法調査でのラヘンの使用者は若年層が多く、それより上の年代の使用はあまり聞かれなかったことなどが挙げられる。世代別多人数アンケート調査においても、特に中年層以上の話者からは「ラヘンは乱れたことばである」という意識が少なからず聞かれた。しかし、その後の会議録を使った文献調査によって、会議という公的場面においても接尾辞ラヘンの使用がなされることがわ

かった。また、会議録の通時的な分析により、ラヘンは「そこらへん」「どこらへん」等の指示詞形式(指示詞+ラヘン)が先行して使用された後に「真ん中ラヘン」「(～)のところラヘン」等の名詞+ラヘンの形式が使用されるようになる(佐藤(2016))ということもわかってきた。これは世代別多人数調査の結果を分析した佐藤(2012)と同様の結論であることから、指示詞+ラヘンから名詞+ラヘンへの拡張は、日常か公的かといった場面の差異にかかわらず生じているといえる。

しかし、これらは接尾辞ラヘンの用法をすべて取り上げたものではない。佐藤(2015)は実地調査の結果から、名詞+ラヘンの用法とその派生関係について指摘したが、公的場面における様相については明らかにしていない。接尾辞ラヘンの用法の拡張を明らかにするためには、公的場面にみられる用法とその拡張を分析すること、公的場面と日常場面におけるラヘンの年代的・地理的な変遷を併せて分析することが必要である。本稿は、用法拡張を考察する前段階として、「国会会議録」と「地方議会会議録」という公的場面での名詞+ラヘンの用法を記述することを目的とする。

本稿の構成を以下に述べる。まずは2節で先行研究と今回の調査資料の特徴について説明し、接尾辞ラヘンと調査資料の概観を述べる。3節ではラヘンの上接語、4節では名詞+ラヘンに着目して用法を考察する。その後、5節に結論を記す。

## 2. 研究の背景

### 2-1. 先行研究

「そこらへん」「どこらへん」等の指示詞+ラヘンの形式から「真ん中ラヘン」「東北ラヘン」等の名詞+ラヘンの形式への拡張を指摘したのものには、主に佐藤(2012)、佐藤(2016)がある。先に示した通り、佐藤(2012)は世代別多人数アンケート調査の結果を、佐藤(2016)は会議録の文献調査の結果を用いて拡張の様相を結論づけた。なお、会議録を用いた研究には接尾辞ラヘンの地理的変遷について指摘したものもあるが(佐藤(2013)、佐藤(2016))、ここでの説明は省略する。

- 名詞+ラヘンの用法について分析しているのが佐藤(2014)である。佐藤(2014)は、
- ①上接語、②名詞+ラヘンの意味の観点から以下の用法を指摘する(p. 102-103)。
    - ①ラヘンには「場所」「時間」「数量」「人」「事物」といった様々な意味を有する名詞が上接する。
    - ②名詞+ラヘンの意味としてはaとbが存在する。
      - a ラヘンによってある範囲を漠然と示す用法

i 上接語の表すものの周辺を漠然と示す

ii 上接語の表すものの範囲を漠然と示す

b ラヘンによって他の候補を暗示する用法

他に存在する候補を暗示しつつ、上接語を候補の中の代表として示す

本稿では上の①②を踏まえ、名詞+ラヘンの用法を分析する。

## 2-2. 調査資料

本稿では「国会会議録」「地方議会議録」の2つの資料を調査する。国会会議録の調査には「国会会議録検索システム」、地方議会議録の調査には「地方議会議録コーパス」を用いる。「国会会議録検索システム」は、衆参両院事務局と国立国会図書館によって運営されているデータベースである。1947（昭和22）年から現在までの本会議・委員会記録が収録されており、「大量で、口語的性格を多分に残した上に時間的幅を持った電子化現代語資料」（松田2008:p. 25）であるといえる。

「地方議会議録コーパス」は、二階堂整氏の科学研究費助成事業の成果の一つとして構築されたデータベースである。高丸(2015)によると、これには425地方議会（総発言文数：約1億2500万文、総文字数：約81億文字）の本会議・委員会記録が収録されている。各地方自治体によって収録期間は異なるが、現時点で1947（昭和22）年から2011（平成23）年までの収録がある。収録期間が各地方自治体で異なるため、地域によって量に偏りがあることは否めない。しかし、名詞+ラヘンは地方議会議録に特に多く出現するため、用例を収集するには最適な資料である。

本稿では、「らへん」「ら辺」（「ら辺り」は除く）を検索語として上記の資料から用例を収集し、ラヘンの用法を分析した。調査対象期間の詳細は後述する。

## 3. ラヘンに上接する名詞の表す意味

まず、接尾辞ラヘンの上接語の特徴を記述する。佐藤(2016)で指摘した通り、国会会議録と地方議会議録に出現するラヘンの上接語の種類には差がある。1947（昭和22）～2014（平成26）年の国会会議録にみられたラヘンの上接語は「とこ（所）」、「真ん中」の2種類であった。一方、全都道府県の記録が揃っている2000（平成12）～2010（平成22）年の地方議会議録では、ラヘンの上接語は「とこ・ところ」「真ん中」の他に、「こと」「地名」「向こう」「近く」「最初」「最後」「終わり」「後」「（～の）頭」がみられた。佐藤(2016)では各上接語の出現時期にも差があることを指摘するが、通時的な分

析は別稿に譲ることとし、本稿では上に示した期間における両会議録の用例を共時的なものとして取り上げる。

国会会議録の出現数は「ところラヘン」が101例、「真ん中ラヘン」が8例であり、地方議会会議録の出現数は「ところ／ところラヘン」が4187例、「真ん中ラヘン」が55例、「ことラヘン」が9例、「[地名]ラヘン」「向こうラヘン」が6例、「最後ラヘン」が2例、「近くラヘン」「終わりラヘン」「最初ラヘン」「後ラヘン」「頭ラヘン」が各1例ずつであった。これらの用例を分析するが、特に用例数の多い地方議会会議録の「ところ／ところラヘン」については、全数から500例をランダム抽出して分析することとした。したがって、今回分析した名詞＋ラヘンは「ところ／ところラヘン」(601例)、「真ん中ラヘン」(63例)、「ことラヘン」(9例)、「[地名]ラヘン」(6例)、「向こうラヘン」(6例)、「近くラヘン」(1例)、「最後ラヘン」(2例)、「最初ラヘン」(1例)、「終わりラヘン」(1例)、「後ラヘン」(1例)、「頭ラヘン」(1例)である。

会議録にみられた名詞＋ラヘンの上接語は、[地名]を表す名詞を除き形式名詞や相對名詞がほとんどであった。形式名詞や相對名詞は、単独ではどのような意味を有しているか判断できないため、実際の用例をみて分析する必要がある。以下、上接語の表す意味ごとに節を分けて考察していく。なお、上接語の表す意味を考えるにあたっては、2-1節で挙げた佐藤(2014)の「場所」「時間」「数量」「人」「事物」の分類を参考にした。これに当てはまらない意味もみられたが、この点については後述する。

### 3-1. 場所

場所の意味を有する上接語は、「ところ／ところラヘン」「真ん中ラヘン」「[地名]ラヘン」「向こうラヘン」「近くラヘン」「最後ラヘン」にみられた。以下に例を示す。なお、紙幅の都合上、発言の一部を「…」で省略した場合がある。

- (1) 定置の漁業権の免許する場合は…かき網のほうまで全部この漁場の区域というふうに免許の内容としてなりますので、…身網、かき網のところら辺は定置漁業権者の漁業の区域となることが普通でございます。(第40回 参議院 農林水産委員会26号 昭和37年4月10日 IM議員 福島県出身)
- (2) 「バカの壁」の大ベストセラーを書かれました養老孟司さんが、3ページ目ですけれども、その下段の真ん中ら辺から読んでみてください。(第164回 衆議院 農林水産委員会16号 平成18年6月7日 ST議員 長野県出身)
- (3) まだ3路線の中で決まっておるわけでは当然ないわけでありませうけれど、…そ

ういった中でこの将来、子や孫のために、ああ、中津、坂本ら辺に駅ができた。

(岐阜県中津川市議会 定例会 平成20年12月10日 YT議員)

(4)ここからですと、駅のちょっと向こうら辺でしょうかね、600メートルという  
と。(滋賀県湖南市議会 臨時会 平成15年8月4日 KH議員)

(5)あの場所はですね、農集落の近くら辺でもトイレが設置できるような場所はあり  
ます。(沖縄県宮古島市議会 定例会 平成17年12月21日 IY議員)

(6)19年度の下水道事業の決算審査意見書の一番最後ら辺に、今後も企業債の償還  
施設の整備、維持管理等、多額の資金需要が見込まれ、さらに損失が増加する…  
(福岡県苅田町議会 定例会 平成20年12月16日 TM議員)

(1)は、定位置網漁の説明をしているところで、「身網、かき網のあたり」という具体的  
的な場所を示している。(2)は「下段の真ん中」という本の記述の一部分、(3)は「中津、  
坂本」という地域の周辺を指している。(4)は「駅の向こう」、(5)は「農集落の近く」と  
いう漠然とした範囲を示している。(6)も(2)と同様に「決算審査意見書の最後」とい  
う書類の一部分を示している。以上のように、ラヘンの上接語には具体的な空間の意  
味を表しているものが多くある。

また、具体的な空間ではなく、抽象的な空間的位置を示す用例も「とこ／ところラ  
ヘン」「真ん中ラヘン」にはみられる。以下(7)(8)がそれである。

(7)いままでの騒音一点張りの関係と、ここに振動規制が出てきたという関係、それ  
らの関係の中で、いわゆるその間にいる、いまロッキードで問題になっている灰  
色のとこら辺ですね、灰色高官じゃなくて灰色の基準、この辺の基準が…問題に  
なると思うのですけれども、…(第78回 参議院 公害対策及び環境保全特別委  
員会2号 昭和51年10月20日 AS議員 静岡県出身)

(8)だけれども、組織ってやっぱりピラミッドになっていて、真ん中ら辺の部長か  
ら副課長ですね…この層に…管理職の側に立って気持ちを考えてほしいんです  
よ。(兵庫県宝塚市議会 委員会 平成22年11月26日 TK議員)

(7)は「騒音一点張りの関係」「振動規制が出てきたという関係」の間にあるグレー  
ゾーンを指して「灰色のとこら辺」とし、(8)はピラミッド型の組織図の中の中位層を  
指して「真ん中ら辺」と表現している。具体的な場所ではないが、自分の想定した抽象  
的な位置や範囲を示しているため、「場所」に準ずるものと考えられる。

以上に挙げたものが「場所」を示す用例である。「[地名]ラヘン」、「向こうラヘン」、  
「近くラヘン」、「最後ラヘン」は、すべての用例がこれに当てはまる。「とこ／ところラ

ヘン」では601例中77例、「真ん中ラヘン」では63例中62例みられた。

### 3-2. 時間

時間を表す上接語は、「とこ／ところラヘン」「真ん中ラヘン」「最初ラヘン」「終わりラヘン」「後ラヘン」「頭ラヘン」にみられた。(9)～(13)に例を示す。

(9) 成果主義みたいなものが教育界に入ってきたのは本当に2000年に入ってから、2001年、2年というところ辺で入ってきました。(第165回 衆議院 教育基本法に関する特別委員会9号 平成18年11月9日 ON氏 滋賀県出身)

(10) 先月も何か真ん中ら辺にやりますわといううわさ…流れたけど、何で1日になつたんか。(大阪府大阪市会 定例会 平成16年11月5日 OH議員)

(11) 隣におる坂井先生とともにいろいろさせてもらったんですけど、あのときは2年生の最初ら辺でしたかな。(大阪府大阪市会 定例会 平成18年1月26日 OH議員)

(12) 2回目の質問になるんですが、私は1回目の質問、終わりら辺で、地元に対しての説明がどうだったのかいうところで終わってたと思うんです。(大阪府八尾市議会 委員会 平成17年6月20日 TY議員)

(13) 途中余り質問はないんですけども、後ら辺に、ちょっと質問させていただきます。(大阪府大阪市会 定例会 平成17年5月24日 OH議員)

(9)は、「2001、2年」という時間的位置を示している。(10)は「何で(開催が)1日になつたんか」という発言から、「真ん中ら辺」は「月の中旬」を指して発言していると考えられるため、「時間」の用例である。(11)は「2年生の最初」、(12)は「1回目の質問(の終わり)」、(13)は「後」という「時間」を漠然と示している。このような時間的位置を示す例は、「とこ／ところラヘン」に23例、「真ん中ラヘン」「最初ラヘン」「終わりラヘン」「後ラヘン」「頭ラヘン」に1例ずつみられた。

### 3-3. 数量

時間的位置のみならず、数量的な位置や量を示す用法も存在する。ただし、「とこ／ところラヘン」に7例、「最後ラヘン」に1例と数は少ない。

(14) 各国の割り当て額の10%を最初の発動額とするということになりますと…七千二百万ドルクォータの10%というところへんは、予算の積算の一つのめどとして考えてみてもいいのではないかということで、特別会計に組んだわけで

ございます。(第61回 衆議院 外務委員会6号 昭和44年3月17日 MS議員  
大阪府出身)

(15)ごみの有料化をいたしましたのは、減量化の問題ともあわせて考えまして、私どもは数年前からお願いをすることになっていたけれども、…ほとんどの自治体が有料化をしておいて、大牟田市は一番最後ら辺で有料化をさせていただいたという経過もございます。(福岡県大牟田市議会 定例会 平成20年12月12日 KK議員)

(14)は「七千二百万ドルクォータの10%」、(15)は「他の自治体の中で一番最後」という数量的位置を示している。なお、(15)は順序を示していることから、空間的・時間的位置を表しているとも解釈できる。今後の検討の余地はあるが、ここでは「3番目」のような順序を表す上接語を「数量」として扱った佐藤(2015)に合わせ、(8)は「数量」を表すものと考えることとする。

### 3-4. 抽象的な事柄

3-3節までみてきた上接語の意味は、佐藤(2014)で指摘した上接語の種類と同様のものであった。ただし、既出の上接語の特徴とはあてはまらない例が「とこ／ところラヘン」「ことラヘン」には存在し、またその用例数のほとんどを占める。

(16)財政上の問題もあって施設サービス提供に限界がありという、これからの先を見据えたところら辺はやっぱり必要なとは思っているので、…方向性としては、委員会としては持っていてもいいのかなというふうに思います。(岐阜県高山市議会 委員会 平成22年7月15日 FH議員)

(17)現状では、子どもの、日本に來られて、学習というよりか生活のことら辺までも全く異文化のところから來れるということなので、…(京都府舞鶴市議会 平成21年3月19日 HS議員)

(18)どういったことをするか、要は学校現場と家庭と教育委員会初め学校の先生、そういったところら辺の連携がもうひとつじゃないかと。(兵庫県川西市議会 委員会 平成19年3月14日 YC議員)

(19)もうそういう中で速報を受けても、受けたら心の準備はできるけれど、じゃあどういうふうにしたら、動いたらいいかということも気象庁としては行動指針というのをまとめているそうです。そういうところら辺の周知というものを、…(三重県名張市議会 定例会 平成19年9月14日 HY議員)

(20)この留守家庭児童に関しましては、民間の方も結構活発にやられている状況があります。民間の方は…高いですよ、お金が。高いけれども民間に預けてはるというのが、割とたくさんあるように見受けられます。何で補助がないにもかかわらず民間をよしとされるのかというところ辺は、やはり送迎であったり、それからずっと長いこと保育所でお世話になっていて先生方との連携がとれているとか、そこに安心する場があるからとかいうふうな形で、…(京都市宇治市議会 委員会 平成13年12月20日 TM議員)

(21)その辺の、予想の伸びより少なかった理由と、ペナルティーの規定があるというところ辺は、どのように市としては見解をお持ちなのかなと思ってお聞きをします。(京都市舞鶴市議会 委員会 平成19年9月28日 IE議員)

まず、「とこ・ところ」「こと」の直前の形式は、(16)「見据えた」(17)「生活の」のように動詞や名詞が連体修飾の形になっているもの、(18)「そういった」(19)「そういう」のような指示詞を用いているもの、(20)「何で補助がないにもかかわらず民間をよしとされるのかという」(21)「ペナルティーの規定があるという」のように特定の文を「という」で受けているものがある。内容をみていくと、(16)は報告書に挙げる内容を吟味している状況での発言であり、「これから先を見据えた意見」が必要であるため、この委員会としてはその意見を持っていてもよいという趣旨である。(17)は日本語指導が必要な子供に関する発言で、「生活の様子」が異なる国から来ると発言している。(18)は「学校現場と家庭と教育委員会初め学校の先生」を指して「そういった組織や機関」の意味で、(19)は「気象庁が行動指針をまとめている」ことを指して「そういう事実」の意味で発言している。同じように考えると、(20)は「何で補助がないにもかかわらず民間をよしとされるのかという理由」、(21)は「ペナルティーの規定があるという問題」のように捉えられる。いずれも、「とこ・ところ」「こと」によって「意見」「様子」「組織」「機関」「事実」「理由」「問題」など様々な内容を示している。また、これらの内容は「抽象的な事柄」であるといえる。「とこ／ところラヘン」は601例中494例、「ことラヘン」は9例中9例がこの例であった。このような抽象的な事柄を示す上接語は、名詞+ラヘン自体の意味も特徴的である。詳しくは4節に述べる。

### 3-5. 上接語の特徴

3節では、名詞+ラヘンの形式ごとに上接語の特徴をみた。先述した上接語の意味と出現数をもとに、上接語の各意味における出現割合を求めたものが表1である。こ



こでの出現割合は、各意味における上接語の出現数を、分析対象とした全用例数(692例)で割ったものである。なお、紙幅の都合上、小数点第3位以下は表示していないため、表中の数値の合計は100%にはならない。

表1の通り、今回分析対象とした名詞+ラヘンの上接語の意味は「場所」「時間」「数量」「抽象的な事柄」であった。実地調査では「人」「事物」の意味も出現したが、今回の会議録を対象にした調査ではみられなかった。

実地調査でもみられた「場所」「時間」「数量」に着目すると、上接語が「[地名]」という場所名詞の場合は「場所」、「真ん中」「向こう」等の相対名詞の場合は「場所」「時間」「数量」といった様々な意味を示す。ただし、複数の意味をもつのは「真ん中」「最後」のみであることから、相対名詞の種類ごとに表しやすい意味があると考えられる。また、「場所」の出現割合は22.1%と、「時間」「数量」に比べて5~20倍の割合である。佐藤(2015)は、ラヘンに上接する名詞は「場所」の意味のものが最も多いと指摘するが、会議録でも同様のことが言えそうである。

「とこ・ところ」「こと」を上接語とし、「抽象的な事柄」を示すものは、今回の調査で最も多くみられた。「とこ／ところラヘン」「ことラヘン」は佐藤(2014)、佐藤(2015)の本調査前の自然傍受法調査では出現せず、また、予備調査の話者からも「使用しない」という回答が得られたものである。したがって、これらは公的場面における特徴的な用法である可能性が高い。4節ではこの「抽象的な事柄」を中心に、名詞+ラヘンの意味を考察していくこととする。

#### 4. 名詞+ラヘンの意味

先に示した通り、佐藤(2014)で明らかにしたラヘンの意味は以下の3つである。

- a ラヘンによってある範囲を漠然と示す用法
  - i 上接語の表すものの周辺を漠然と示す
  - ii 上接語の表すものの範囲を漠然と示す

表1 ラヘンの上接語とその意味の出現割合

	場所	時間	数量	抽象的な事柄	合計
とこ・ところ	11.13	3.32	1.01	71.39	86.85
真ん中	8.96	0.14	0	0	9.10
こと	0	0	0	1.30	1.30
[地名]	0.87	0	0	0	0.87
向こう	0.87	0	0	0	0.87
近く	0.14	0	0	0	0.14
最後	0.14	0	0.14	0	0.28
最初	0	0.14	0	0	0.14
終わり	0	0.14	0	0	0.14
後	0	0.14	0	0	0.14
頭	0	0.14	0	0	0.14
合計	22.10	4.02	1.15	72.69	99.96

## b ラヘンによって他の候補を暗示する用法

他に存在する候補を暗示しつつ、上接語を候補の中の代表として示す

a は名詞の表す周辺や範囲を漠然と示しているが、b は他の候補があることを暗示しているという違いがある。また、a と b は、連続的な概念を示すか独立的な要素を示すかという点で異なっている。例えば、「その駐車場は吉野家(店名)ラヘンにある」という文は a - i の意味で使用される。この場合の名詞+ラヘンは「吉野家の周辺の場所」という理解ができ、吉野家がある場所と連続している空間的な周辺を想定しているといえる。一方で「牛丼を食べるなら吉野家ラヘンがいい」という文は、「吉野家の周辺の場所」ではなく、「牛丼を食べることができる店」に該当する候補をいくつか想定し、その上で「吉野家ラヘン」と取り立て、「吉野家」以外の他の候補を周辺として理解するものである。このように独立的な要素を示すのが b の用法である。

今回は、上接語の意味が「場所」「時間」「数量」であるものはすべて a の「ラヘンによってある範囲を漠然と示す用法」に分けることができた。また、佐藤(2014)は、上接する名詞が狭い範囲を示す場合は a - i、広い範囲を示す場合は a - ii の意味になる傾向を指摘するが、それは今回の結果にも当てはまる。例えば(2)「(3ページの)下段の真ん中ら辺」や(3)「中津、坂本ら辺」は、「下段の真ん中あたり」「中津、坂本あたり」という、上接語を含む連続的な周辺(a - i)を示し、(4)「駅のちょっと向こうら辺」や(5)「農集落の近くら辺」は、「駅の向こう」「農集落の近く」という、上接語の表すものの範囲内(a - ii)を漠然と示している。

一方で、会議録にみられた「抽象的な事柄」の意味を有する名詞+ラヘンは、どの用例も独立的な要素を示すが、a - ii と b のどちらの用法に該当するかを判断することは難しい。例えば、(20)「何で補助がないにもかかわらず民間をよしとされるのか」というところら辺は、周辺と範囲の両方を想定できる。周辺の場合は、上接語である「民間をよしとする」以外の事実として、「公共の学童保育には預けない」「民間の学童保育以外の選択肢がない」などの類似の事実を候補として想定できる。この候補の中から、上接語とした「補助がないにもかかわらず民間をよしとするとこ(ろ)」を代表として示している(b)。(20)が範囲の場合は、上接語で示した「補助がないにもかかわらず民間をよしとする」という理由の内容を表している。つまり、後述部分の「送迎がある、ずっと長いこと保育所でお世話になっていて先生方との連携がとれている、そこに安心する場がある」という、理由の具体的な内容を漠然と示していると考えられる(a - ii)。

ここでは(20)を例として挙げたが、「抽象的な事柄」の用例はいずれも用法を確定させるのが困難である。今回のような文献調査の場合、話者の使用意識を聞くことができないということも理由であるが、ラヘンで示される内容が抽象的であることも関係しているといえる。しかし、a - ii と b どちらの用法をとる場合も、周辺や範囲として考えられるのは連続的な概念ではなく、独立的な要素である。また、「抽象的な事柄」の意味になるものは、ラヘンを使わず「とこ・ところ」「こと」のみを使った場合でも意味が通じるものが多い。それでもラヘンを用いるのは、ラヘンの上接語として明示したものの以外にも関連するものがあるという発言者の意識の現れだとも考えられる。今後の検討が必要ではあるが、今回は以上に挙げた点を踏まえ、「抽象的な事柄」を b の「ラヘンによって他の候補を暗示する用法」に当てはまるものと判断する。

まとめると、名詞+ラヘンの意味は上接語の表す意味によって異なり、上接語が「場所」「時間」「数量」であれば a の「ラヘンによってある範囲を漠然と示す用法」、「抽象的な事柄」であれば b の「ラヘンによって他の候補を暗示する用法」となる。各用法の出現割合は、a - i が10.39% (72例)、a - ii が1.43% (10例)、b が88.15% (610例)であった。

## 5. 結論

本稿では、上接語と名詞+ラヘンの意味という観点から、会議録にみられる名詞+ラヘンの用法を考察し、記述することを試みた。結論は以下のようになる。

- ・ 上接語は、「地名」以外の10種類は相対名詞や形式名詞である。
- ・ 上接語の意味には「場所」「時間」「数量」「抽象的な事柄」がある。
- ・ 名詞+ラヘンの意味は上接語の有する意味により異なる。上接語が「場所」「時間」「数量」であれば「ラヘンによってある範囲を漠然と示す用法」、「抽象的な事柄」であれば「ラヘンによって他の候補を暗示する用法」となる。

今回の結果を、日常場面での使用を聞いた実地調査の結果と比べると、b「ラヘンによって他の候補を暗示する用法」の上接語に違いがある。会議録でこの用法がみられるのは、「とこ・ところ」「こと」が上接語となる「抽象的な事柄」であった。一方で、日常場面では b の用法は上接語の種類によらず使用されるが、特に「太郎」「映画」などの「人」「事物」の意味を有する名詞の場合に b の用法が使用されやすい(佐藤(2015))。しかし、「とこ・ところ」「こと」は日常場面では確認できず、「人」「事物」は公的場面では確認できなかった。

これには、各場面での会話相手や話題、発話状況の違いが関係している可能性がある。会議の場では、話し手はある議題について、会議にいる多数の聞き手にわかるように話をする必要がある。すなわち、直前に出た話題や発言といった、その場で共有されている情報をもとに、自分の意見を述べることが要求される。そのため、「とこ・ところ」や「こと」で前の部分を受けて発言することが多いと考えられる。一方、日常場面では少人数の親しい間柄での会話がほとんどである。したがって、直前に出た情報以外にも共有できる情報が豊富にあり、必ずしも前の発言や話題を受けて発言する必要はない。そのため、「とこ・ところ」や「こと」を使う必要はないと推察される。また、会議の場では相手に指示したり、自分の意見を主張したりするときにラヘンを使用する場合がみられたが、日常の場では、相手の様子をうかがいながら自分の考えを提示する状況でラヘンを使用することが多いように思われる。佐藤(2014)他で行った調査の事前調査では、ラヘンを使用する場合の文の形式も尋ねたが、文末が「～じゃない?」という形式になることが多かった。ラヘンの上接語やその意味の違いには、会話の状況と、それに伴う文タイプの違いも関わっている可能性がある。

以上に挙げた点に関しては、使用者の意識や使用場面の詳細な調査によって論を補強する必要があると思われる。また、日常場面で見られたような用法拡張が公的場面でも指摘できるのか、日常場面と公的場面での用法拡張の様相に違いがあるのかなどの問題について明らかにすることも、接尾辞ラヘンという新語の用法拡張を論じる上で重要な観点である。これらはすべて今後の課題とする。

#### 参考文献

- 佐藤亜実(2012)「福島県郡山市における接尾辞ラヘンの新用法―場所を示す名詞+ラヘンを中心に―」『言語科学論集』16, pp. 27 - 38.
- 佐藤亜実(2013)「そこらへん(指示代名詞+ラヘン)」の共通語化:近現代における使用地域の拡大について」『言語科学論集』17, pp. 1 - 12.
- 佐藤亜実(2014)「福島県郡山市の若年層における接尾辞ラヘンの用法記述」『国語学研究』53, pp. 91 - 103.
- 佐藤亜実(2015)「多人数調査からみた接尾辞ラヘンの用法とその派生―福島県郡山市における多人数調査から―」『国語学研究』54, pp. 46 - 61.
- 佐藤亜実(2016)「会議録における接尾辞ラヘンの通時的・地理的展開」『国語学研究』55, pp. 15 - 30.
- 高丸圭一(2015)「地方議会会議録にみられるオノマトペ」二階堂整・松田謙次郎・高丸圭一・山際彰・佐藤亜実「日本語学会2015年秋季大会ワークショップ地方議会会議録から見える日本語のバリエーション」『日本語学会2015年秋季大会予稿集』, pp. 230 - 234.
- 竹安栄子(2004)「地方議員のジェンダー差異」『京都女子大学現代社会研究』7, pp. 99 - 118.
- 二階堂整・川瀬卓・高丸圭一・田附敏尚・松田謙次郎(2015)「地方議会会議録による方言研究」『方言の研究』1, pp. 299 - 324.
- 松田謙次郎(編)(2008)『国会会議録を使った日本語研究』ひつじ書房.

**調査資料**

木村泰知・高丸圭一・乙武北斗他「地方議会会議録検索システム」地方議会会議録コーパスプロジェクト  
(<http://local-politics.jp/>) (限定公開されているβ版を使用し、調査を行った)

国立国会図書館「国会会議録検索システム」<http://kokkai.ndl.go.jp/> (最終アクセス2016年9月18日)

—東北大学大学院生—